

空國自頓丘竟國行去○註到於吾田長屋笠狹之碕矣

〔釋日本紀八述義〕舊宍之空國

大問云此國何國哉先師申云仲哀天皇欲討熊襲國之時有神託宣曰熊襲國者舊宍之空國也愈

茲國有金銀寶國新羅也云々然則舊宍之空國者熊襲國之號歟將亦下國之摠名歟熊襲國者爲佐

渡島一名之由見舊事本紀耳

〔續日本紀三十九桓武〕延曆七年七月己酉太宰府言去三月四日戌時當大隅國贈於郡會乃峯上火炎大

熾響如雷動及亥時火光稍止唯見黑烟

〔類聚國史百九十風俗〕延曆十二年二月己未大隅國會於郡大領外正六位上會乃君牛養授外從五位下

以率隼人入朝也

〔大隅國圖田帳〕大隅國 注進 國中總田數寺社庄公領并本家領所地頭辨濟使等交名事

合田參仟拾漆町伍段大○中

會野郡 二百廿九丁四段大○中

建久八年六月日○署

大隅郡 〔太宰管内志 大隅國下〕大隅郡

輿地圖を按ずるに大隅郡東西南三方は海に至り北は肝屬郡につけり

始羅郡 〔太宰管内志 大隅國下〕始良郡

日本輿地圖を按ずるに始羅郡東は贈於郡南は海北は桑原郡西は薩摩國鹿兒島郡に隣りて東

五六里南北七八里あり常足按ずるに昔の始良郡と云は大隅肝付二郡の内にいりて中比絶た

郷名などを勘へ合せてしらす

〔地理纂考十六〕始良郡